No 36

1976.
8. 5

岐阜の博物館

編集兼発行
〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
内藤記念くすり資料館内
岐阜県博物館協会
TEL (058689) 3111
内線 540
振替 名古屋 70106

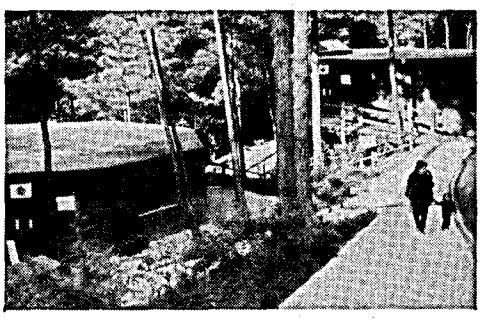
館・園紹介 No 31

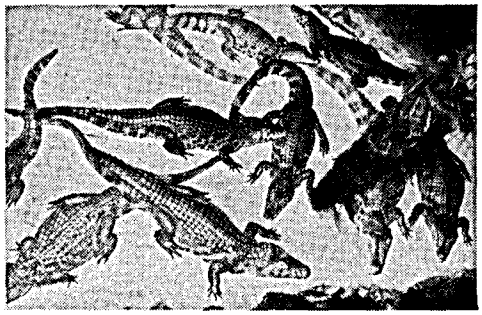
太古の姿を今に伝える

爬虫類の森

〒509−22 益田郡下呂町森
TEL<05762>5−5804

猛毒をもつインドコブラ





上：森の中に点在する動物舎
下：体長1mにも及ぶワニのなかま

今後の発展が期待される県下唯一の施設

下呂温泉の東方，合掌村の隣，信貴山の山腹にある自然林の一部を切り開いた4,400平方メートルの敷地内に，昭和49年6月オープンしたもので，点在する八角形の動物舎には，ワニ，ヘビ，トカゲ，カメなど約80種 800余匹が展示されている。本県博物館界のもっとも手薄な部門を補うばかりでなく，日本でも屈指の施設といえよう。

順路を進むと，まず大蛇が目につく。5〜6メートルもあるニシキヘビには，ドキッとさせられる。壁面には，ウサギをのみ込む写真が掲げてある。カメは，水に浮いているものや，親ガメの上に乗った子ガメもいて，実にかわいい。ワニがうようよしている動物舎は，まさに熱帯そのものだ。それに比べると，トカゲ類は小さくて愛きょうがある。毒ヘビ類もよく集めてあり，鎌首をもち上げたインドコブラには，こちらも身がまえるほどであった。

中世代に全盛を極めた爬虫類に対する人間の関心には，根深いものがあり，その心理をうまく利用すれば，博物館教育の実をあげることができよう。この8月には，展示動物の数を増やされるとのことだが，県内の爬虫類研究も合わせてお願いしたい。近くにある峰一合遺跡・中部山岳考古館，合掌村と当地を結ぶ循環バスが出ており，湯の町下呂の新しい魅力をつくり出している。町当局の熱意と今後の発展を期待したい。　大人400円，小人200円，団体大人360円，同小人180円。年中無休。

（写真は武藤暁生氏提供　文責　宮崎）

昭和51年度

第14回 東海地区博物館連絡協議会総会報告

昭和51年6月8・9の両日，岐阜県博物館協会の当番で，関市小屋名岐阜県博物館において，昭和51年度 東海地区博物館連絡協議会が開催されました。参加者は60名，岐博協からは28名の方々が参加され，会場のすばらしさもあって，盛大な会合となりました。

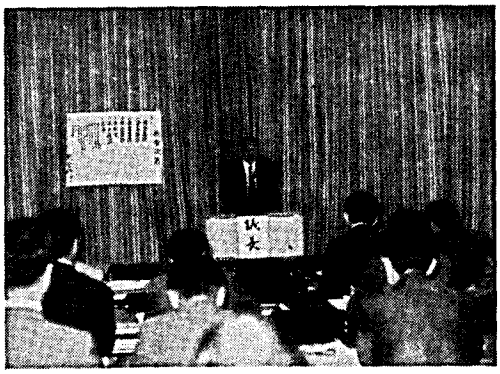
初日の総会では，郷 浩 岐博協副会長の開会の挨拶につづき，岐博協会長代理 渡辺啓市氏，岐阜県文化課長代理 高木秀雄氏，会場である県博物館々長 小幡忠良氏らの挨拶がありました。

表彰式では，規定により，徳川美術館名誉会長 熊沢五六氏，久能山東照宮博物館 森 威史氏，飛騨民族村名誉会長 長倉三朗氏ら三氏に，その功績を称えて表彰状が贈られました。

その後，昭和50年度 事業ならびに決算報告が行われ，次いで昭和51年度 事業計画と予算案が審議，承認されました。

なお，日博協支部の件及び日博協評議員選出の件については，総会前の理事会で審議されましたが，未だ時期尚早ということで，総会の議題にはなりませんでした。また，日博協より叙勲，賜杯等候補者を推薦するよう要望があった件については，各県博協または各館園で行なうということになりました。

次回開催県，静岡県博 松浦国男会長の閉会の挨拶により総会を終了した後，会場である岐阜県博物館を見学しました。



総 会 風 景

夜には懇親会を兼ね，昼間県博物館で学習された鵜飼の本物に触れていただき，参加の方々はその原始的な漁法，かがり火の美しさや本場のアユの味などを存分に楽しまれたようでした。

翌9日は，郷 浩 副会長の案内で，常在寺，崇福寺，岐阜城，名和昆虫博物館，内藤記念くすり資料館等を見学し，全日程を終了後解散しました。

熊沢五六氏ら三氏へ表彰状

東海博総会の折，上述の三氏に贈られた表彰状の表彰文をここに紹介し，今後益々のご活躍，ご発展，ご健康をお祈り致します。

表彰状 熊沢五六 殿

あなたは愛知県博物館協会設立以来永年にわたり会長として愛知県の博物館界のため多大なる貢献をされました。ここにそのご尽力に対し謹んで敬意を表わし表彰いたします。

表彰状 森 威史 殿

あなたは静岡県博物館協会設立に尽力されるとともに，事務局長として博物館活動の振興に多大なる貢献をされました。ここにそのご尽力に対し謹んで敬意を表わし表彰いたします。

表彰状 長倉三朗 殿

あなたは岐阜県博物館協会設立以来永年にわたり博物館協会の副会長として岐阜県の博物館活動のために多大なる貢献をされました。ここにそのご尽力に対し謹んで敬意を表わし表彰いたします。

東海博総会に参加して

岐阜県博物館に望むことなど

市立名古屋科学館　三輪　克

6月8・9日の両日にわたって昭和50年度東海地区博物館連絡協議会総会が岐阜県博物館などを会場にして開催され，出席を命ぜられた。5月に開館したばかりの岐阜県博物館は是非とも訪れたいと思っていた館でもあり願ってもない機会であった。

当日は，岐阜県博物館協会の手により手際良く総会が進められた。総会に先立つ理事会では日本博物館協会より要請のあった案件などについて審議したが，全国組織であるが故にきめ細かさがやゝもすると欠ける日博協と，地方の独自性，自主性を強調する地方組織との間には，克服しなければならないギャップが未だ存在することがわかった。

総会終了後，展示室を見学し，また，学芸部室など内部の事務室も訪れ，一部の方々からもお話を聞くことができた。

展示室は，聞くところによれば専門の工芸社の手によっているせいか大変美しくまとめられている。しかし，最近，良く取入れられている一種の「建築化展示」がここでもかなり用いられているようで，手作りの展示の入る余地が少なくなっている感じを受けた。

県立博物館が近年各県で設立されている。自然史，人文両方を展示する総合博物館が多いが，準備期間が短かく，また特定の基礎コレクションをあらかじめ持っていることも少ないのでゼロからスタートするところがほとんどである。そのため，開館までには必ずしも充分な資料の収集整理ができるとは限らず，資料的には未完でも展示技術でカバーする館もあるやに聞く。

もちろん優秀な展示技術でもって数少ない資料を最大限に利用することも大切なことであるが，博物館にとって生命とでもいえる資料の収集，整理，研究は，博物館が存在している限り絶えることのない最も重要な使命であり，それを司るのが学芸部である。したがって博物館が良くその使命を果すことができるか否かは，学芸部が良く機能を果しているか否かにかかっていると言ってもよい。

学芸部が充分に機能を果すためには，各学芸員の資質がすぐれていなければならないことは無論のこと，館あるいは学芸部の方向づけが的確になされていなければならない。

館によっては研究活動よりもいわゆる展示活動に力を注いでいるところ，展示活動よりも研究活動に力を注ぐところなど館種，規模あるいは館長等の方針によりさまざまであるが少なくとも，県立博物館は社会教育機関であると同時に開かれた高度な学術研究機関としての性格をも持たなければならない。学芸部は，また，研究機関としての博物館を支える中枢でもある。そのため，学芸部は常に過大な要求に応じてゆかなければならないし，要求に応じられるだけの能力を自己啓発してゆかねばならない。

以上のような点から，学芸部にとって開館は仕事の区切りというよりも，新たな試練の始まりとなるかけである。

博物館の中枢である学芸部が幾多の試練に打ち勝っていくには，学芸部の研究活動，展示活動，教育活動などについてできるだけの保障が与えなければならない。アメリカの博物館などでは研究活動に対しては24時間館を開放している例もある。

岐阜県博物館学芸部の方々はほとんど学校よりの転出者であり，教育についてのベテランばかりであるのは，博物館の教育機能が重視されている表われであろう。しかし，県立博物館としての高レベルの研究機能を確立し保持してゆくことについても努力が重ねられているようで今後の成果の発表が期待される。

以上，取りとめのない事を書いたが，近くにこのように立派な総合博物館が開館されたことは，岐阜県民に対してのみならず，近県の人々にとっても大変心強いことであり，一層の発展を望むものである。

論　壇

文化と博物館 ― その軌道を探ぐる

岐阜県博物館協会　広報委員　田　中　淑　紀

(1) 博物館風の静と動

日本は博物館の歴史が浅いし，古来そうした文化的土壌を発祥し得なかった国柄にその主な基因があると思われるが，どこの地方の公私立博物館を歴訪しても，その中を埋める館風は，空中に二酸化水銀が蓄積するように重くて静止している。

展示室ばかりか展示品もその方法も，動いていなくて静然としている。また，それらを鑑賞する人の心も動かない。動いている者は，学芸員と時計ばかりであるといえば，叱言されるであろうか。

換言するならば，どこの館園も，本質はヨーロッパの19世紀以前の文化史観や文化教育学的発想を越えていないということである。その基本的な価値体系ともなる博物館学さえも，ごく最近の私には，アカデミックで国学的なニュアンスを時々感知するのであるが……。今でも，時と場合によっては，ローマ時代と同じく個人のコレクションの展示場となったり，中世時代のキリスト教がそうであった如くに，政治やセレモニー，カーニバル等への奉仕主義的な発想や，学校教育や社会教育面においても博物館機能そのものが，シュプランガーやソーンダイクなどの文化教育学的立場とか，ラブレーやミルトン等の実学主義的精神を，そのまま基調にしている観がするのである。

確かに，先人の文化遺産を後世の人に伝授するのも，館園の大きな使命であることに，今後も変わりはなかろう。しかし，館園自身をいつまでも文化遺産の半永久的な展示場であるとみなしたり，観賞者が館園の方に動いてくるものであると考えているならば，館園は遅かれ早かれ「歴史の物の入れる倉庫」と化し，その中の学芸員も単なる「管理人」となる危険性が潜んでいることを忘れてはならない。文化という審美な風（精神）とその足跡（遺産）が過去から現在へ，やがては未来へと動こうとするとき，その忠実なサーバントである博物館も，一緒に動かなければならない。

足が痛いと言って停まるのは許されないことである。常に，その侍女たる館園の事物も人々も，動いている風の中にいなければならない。特に学芸員は，その博物館風の静と動に敏感な者でなければならない。

動く具体的な風とは何か ― 館園の内外の活動 ― それである。部屋のインテリア交換，展示品の保管や展示方法の日常的なチェンジ業務，高い研修と技術の日常的努力，学校や地域社会との情報活動や移動展示，新しい文化的職業の技術訓練や文化の振興等の中の，〝動き〟それ自体が未来へと成長する活眼となるからである。

母なる文化が，過去と未来への美しい二本の腕を持っている限り，その子である館園も，過去の静かさと未来への律動を感じる二本の腕を持って邁進してほしいものである。

(2) 文化遺産の展示には人間を忘れないで

文化遺産の博物館における展示では，人間が作った目的，利用などの関係を無視すれば，単なる骨董の展示になってしまい，学術的価値を失ってしまう。作品と深い関係をもつ人間をもっと正面に登場させて，両者の時代が生んだ文化遺産の必然性を出さねばならない。

母なる文化の生む華（遺産）は量質ともに限りが無い。そのために，館園は誰よりも早い文化のメイン・キャッチャーとして情報を察知し，その事前事後措置をとり，その華たちを安全に保護しなければならない。情報の遅れや保存管理の不備は，許されないことである。

郡上郡連華寺の木彫仏盗難事件（昨々年），帰雲城址の民間発掘に見られる埋蔵金を主眼とした商業主義（同年）や，郡上のＹ氏のヤマネ飼育記事（同年４月，国の特天記物）などの誰も知らなかった経緯など，これらは少し前のことであるが，こうした諸問題は現在も続いている。

特に，文化財の保存管理については，最近同郡で陶磁こま犬盗難事件が発生している折，関係文化財のカード及びフォート作成と，近代的な収蔵庫の建設の必要性を痛感したのは，私一人ではなかろう。

昭和32年から34年にかけて建設された興福寺の国宝館が，全国的に収蔵庫ブームを生み，昨々年県内でも郡上若宮神社にモダーンな収蔵庫が建てられた。しかし新たに，建設に伴う保存上の問題が生まれたのもまた事実である。対象となる文化財を宗教的に評価するのか，芸術的に鑑るのかという本質的な問題のほかに，コンクリート建築の経験が浅いためか，梅雨時などの多湿期間の対策の不馴れも手伝って，収蔵庫の床に水が溜って使いものにならないなど，お手上げの所もあるようだ。また，完成後急いで使用するために，コンクリートから出るアルカリ微粒子で，絵画や工芸品が変質してしまったという事実も数例ある。

コンクリートと桧で二重倉にして，機械空気調整を施した正倉院の新収蔵庫でさえも，当初は宝物にカビが生えて困るという噂があった程だ。

国の防火防災施設への補助の方針とが相乗して起った，収蔵庫建設に伴う新たな検討課題はあるものの，漸次よりよい収蔵庫を増やしていったり，特長や所在を明示した文化財のカード及びフォートの集大成なども，盗難散佚防止法の一つである。

また，定期的な施設の巡回や，文化財の解体修理所を県内に設立することなども，文化県である当県の重要な検討課題であろう。

県内ニュース

岐博協　吉田幸平氏　哲学博士号を授与さる

吉田氏は甲冑研究家として有名で，文学博士・学芸員でありますが，本年１月米国ハリウッド大学より哲学博士号を受けられました。

論文のテーマは，「白山信仰の研究」であり，主論文は奥美濃妖怪伝の民族学的一考察，副論文は①飛騨の毛坊主と厩猿信仰，②別山加宝虚空蔵信仰論です。

論文は，かねて米国南カリフォルニア大学へ提出されていたもので，論文の予備審査に合格された折，昨年12月より２か月間にわたり同大学に留学されました。

なお，ハリウッド大学東洋文化研究所長の推薦で，所蔵しておられる多くの甲冑類を，ロスアンゼルスのオリエント博物館構想の中に組み込む計画をもっておられ，目下その準備で多忙な毎日を過ごしてみえます。

吉田氏が昭和25年ころから収集された甲冑は300領にも及び，自宅の岐阜市花月町，濃飛甲冑研究所のほか，関ケ原ウオーランド，城山レストラン，名和昆虫博物館などに収蔵または展示されています。吉田氏の夢は，これまでの収集品３万余点を展示，収蔵する博物館を建設することだそうです。

郷　浩氏　日博協理事に決定

本協会の副会長であり，岐阜城ならびに岐阜城資料館々長の郷　浩氏は，昭和51年度・52年度　日本博物館協会理事に選出されました。

本年は，わが県で全国博物館大会が開催される年でもあるので，中央とのパイプ役として，大いに活躍されることを期待致します。

熊谷記念館　付知町にオープン

日本画壇の至宝といわれる熊谷守一画伯(96)＝東京都在住＝の郷里，恵那郡付知町に熊谷記念館が完成，6月20日開館式が行われました。木造平屋建て約160平方メートル。入場料は大人250円，高校生200円，子ども150円。

飛騨自然科学天文センター オープン

元岐阜天文台長坂井義雄さんは，大野郡清見村で，過疎化から廃校になった夏厩（なつまや）小学校を借用し，天文台建設を進めていましたが，7月24日にオープンしました。天体ドーム，大望遠鏡，プラネタリウムなどもあり，全国同好者に気軽に利用してほしいとのことです。

石田豪澄氏「たぬき談講」出版

貴異美術館々長で，狸研究の第一人者と言われる石田氏が，狸をテーマにした9話から成る本を出版されました。石田氏独特の筆致とさし絵は混乱の世相を見直す心の糧となるでしょう。

（定価 1,000円，日貿出版社）

金生山化石鑑定会 8月に予定

森直之大垣市長，大垣市教委，京都大学理学部大学院生 西脇二一氏らの努力により，8月21・22日の両日，金生山化石館で化石鑑定会が開かれることになりました。金生山産出化石の所有者は，記録保存のためぜひ参加されたい。

連絡先・大垣市教育委員会社会教育課 または
・京都市左京区北白川追分町
京大理学部地質学教室 西脇二一氏

白川郷荻町を保存地区に

文化庁の文化財保護審議会は，白川郷荻地区を重要伝統的建造物群保存地区に選定しました。

村民の生活も含めた保護，保存ということなので，困難点もあると考えられますが，補助金の大幅アップや訪問者のモラルの向上を期待したいものです。

県博物館 特別展「ふるさとの文楽」を公開

ふるさとに残った文楽の概要がわかり，実演も見られるすばらしい特別展です。ぜひ参観し文楽とのふれ合いを深めてください。

展示期間　8月1日～31日（月曜休館）

展示される文楽　恵那文楽，大井文楽，乙女文楽，半原文楽，真桑文楽，室原文楽，八木文楽

賛助実演　8月1日　半原文楽（午後2回上演）
8月22日　真桑文楽（同上）

料金は，大人100円，高大生50円，小中生30円，20名以上は団体割引きがあります。

事務局より

高山市で第24回 全国博物館大会開催!!

"大会開催要項案は下記のとおり"

会期　昭和51年10月18日・19日・20日

会場　高山市グリーンホテル

テーマ　「伝統に関する博物館の諸問題」

おもな日程

第1日　12:00～13:00　受付
13:00～14:00　開会式，顕彰式
15:00～17:00　パネルディスカッション
17:00～19:00　懇親会

第2日　9:00～14:00　分科会
第1分科会「伝統地域における博物館の在り方」
第2分科会「地域産業と博物館のかかわり」
第3分科会「解説手段と解説の在り方」

第3日　9:00～10:30　全体会議
10:30～　見学（白川郷，乗鞍方面）

※ きっと，有意義な大会になるでしょう。
岐博協会員の多数の参加を望みます。